

野菜畑作生産情報 第2号

令和元年5月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



- ◎小麦の出穂期は平年より早まっています。赤かび病の適期防除に努めましょう！
- ◎大豆の排水対策と碎土を徹底しましょう！
- ◎野菜の生育はおおむね順調。適正管理を徹底しましょう！

畑作物

1 小麦

(1) 生育状況

- ア 草丈・茎数ともにおおむね平年並となっている。
- イ 出穂期は、平年より早まっている。
- ウ 上位4葉以下にうどんこ病が散見される。

表-1 小麦の越冬後の生育状況（5月10日現在）

場所	年次	ネバリゴシ				キタカミコムギ			
		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	幼穂形成期 (月/日)	出穂期	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	幼穂形成期 (月/日)	出穂期
農林総合 研究所 (黒石市)	本年	45.3	657	4/11	5/19	48.2	597	4/14	(5/21)
	平年差比	(99%)	(105%)	(遅2日)	(早2日)	(95%)	(100%)	(遅2日)	(早2日)
	平年	45.9	624	4/9	5/21	50.9	598	4/12	5/23
	前年	52.0	533	3/29	5/16	51.0	483	3/30	5/18
野菜 研究所 (六戸町)	本年	50.9	828	4/3	5/20	/			
	平年差比	(86%)	(93%)	(遅5日)	(±0日)				
	平年	59.4	893	3/29	5/20				
	前年	64.4	800	3/28	5/17				
つがる市 (木造)	本年	55.6	516	3/15	5/17	58.7	580	3/18	5/19
	平年差比	(103%)	(83%)	(早10日)	(早3日)	(99%)	(109%)	(早12日)	(早2日)
	平年	54.2	623	3/25	5/20	59.4	533	3/30	5/21
	前年	45.3	455	3/28	5/21	55.6	321	3/30	5/20
十和田市 (相坂)	本年	53.8	913	4/7	5/20	/			
	平年差比	(117%)	(111%)	(遅5日)	(早2日)				
	平年	46.1	825	4/2	5/22				
	前年	56.1	611	3/31	5/21				

注) ①農林総合研究所、野菜研究所が作況試験ほ、つがる市(木造)、十和田市(相坂)が生育観測ほの調査成績。

②平年値は、農林総合研究所の「ネバリゴシ」、「キタカミコムギ」が過去13か年、野菜研究所の「ネバリゴシ」が過去10か年(24年産(出芽不良)を除く)、つがる市(木造)と十和田市(相坂)の「ネバリゴシ」が過去17か年、つがる市(木造)の「キタカミコムギ」が過去23か年の平均値。

③出穂期は、5月20日時点で、()内は見込み月日。

(2) 今後の農作業の留意点

- ア うどんこ病の防除は、病斑が止葉直下葉に発生した直後に薬剤散布を行うと効果的である。ただし、アミスター20フロアブルは、出穂後に使用すると、赤かび病のカビ毒汚染低減効果が劣る事例があるため、別の薬剤を使用する。

- イ 赤かび病は、収量や品質の低下をもたらすばかりでなく、カビ毒を含むため、赤かび粒の混入割合が1万粒に4粒を超えると流通できなくなる。防除は、開花始めから開花期に1回目の防除を行い、その7日後に2回目の防除を行う。2回目の防除後、天候不順が続き蔓延のおそれがある場合は追加防除を行う。
- ウ 湿害防止のため、排水口や明きよの点検補修を行い、ほ場の排水に努める。
- エ 今後の登熟状況に注意し、適期収穫に備える。

2 大 豆

(1) ほ場の準備

ア 排水対策

湿害による出芽不良やその後の生育不良を防ぐため、排水対策はしっかり行う。ほ場の周辺及び内部に明きよ（深さ30cm程度の排水溝）を掘り、排水路に確実につなぐ。

排水不良のほ場では、弾丸暗きよや心土破碎などの排水対策も組み合わせる。

イ 土づくり

大豆の生育に適した土壌酸度はpH6.0～6.5である。酸性の強いほ場では生育不良や根粒菌の活性低下を招くため、水田転換畑では苦土石灰などで酸度矯正する。

有機物や土づくり肥料の施用により地力の向上を図る。

ウ 耕起・砕土

出芽・苗立ちの確保や除草剤の効果を高めるため、耕起・砕土は丁寧に行い砕土率（土塊の大きさ2cm以下）70%以上を確保する。

エ 施肥

施肥方法は、原則として全量基肥とし、施肥量は表－2を参考とする。

初めて大豆を作付けする水田転換畑では、は種直前に根粒菌の種子粉衣で着生を促す。

表－2 施肥基準（10a当たり成分量、kg）

品種	窒素	りん酸	加里
中晩生種	2～3	10～15	8～10

中生種：「おおすず」、晩生種：「オクシロメ」

(2) 種子の準備

ア は種時期

「おおすず」は5月中旬から下旬がは種適期である。

イ は種量

大豆作付面積の拡大やは種時の天候不順などにより、適期よりも遅くは種せざるを得ない場合は、うね幅を慣行の半分程度に狭めた晩播狭畦栽培とする。遅くなるに従って、は種量を多くして栽植本数を確保する。

ウ 種子消毒

紫斑病、虫害対策として種子消毒を行う。

表-3 「おおすず」のは種時期及びは種量

は種期		うね幅 (cm)	栽植本数 (本/10a)	は種量 (kg/10a)
5月中旬～下旬		60～80	20,000程度	7～8
5月下旬～6月上旬		60～80	20,000～30,000	7～12
晩播 狭畦	6月中旬～下旬	30～40	25,000	9～10
	7月上旬～中旬	30～40	25,000～30,000	9～12

(4) は種方法

は種はロータリシーダなどで行い、は種深度は3～4cmとする。

(5) 雑草防除

大豆のは種後出芽前の雑草発生前に土壌処理剤を散布する。ほ場が乾燥している場合は散布液量を多めにし、ゆっくり散布する。

野 菜

1 にんにく

(1) 生育状況

ア りん片分化期は、平年並～2日早く到達した。生育は平年並からやや早まっております、順調である。

イ 病害虫は、さび病が散見される。

表－4 にんにくの生育状況（5月10日現在）

場 所	年次	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	茎 径 (mm)	りん片 分化期 (月日)	収穫期 (月日)	備 考
野菜研究所 (六戸町)	本年 (並比)	90.5	12.0	20.3	4/20	—	透明マルチ
	平年	79.6	10.4	19.4	4/21	7/2	
	前年	82.2	11.7	19.5	4/18	6/27	
藤 崎 町 福 島 (旧常盤村)	本年 (並比)	54.1	6.8	16.6	4/30	—	無マルチ
	平年	54.9	6.6	17.5	4/29	7/2	
	前年	62.5	7.2	18.1	4/24	7/2	
七 戸 町 榎 林 (旧天間林村)	本年 (並比)	65.4	7.8	20.1	4/23	—	グリーンマルチ
	平年	61.7	7.3	17.8	4/24	6/28	
	前年	70.8	7.2	20.2	4/23	6/22	
田 子 町 田 子	本年 (並比)	65.3	7.7	15.9	4/21	—	グリーンマルチ
	平年	62.7	7.7	18.0	4/23	6/28	
	前年	62.5	7.9	19.3	4/20	6/25	

注) ①平年：野菜研究所は平成22～30年の9か年の平均値。

藤崎町は平成9年～30年の22か年の平均値。

七戸町は平成8年～30年（平成25年を除く）の22か年の平均値。

田子町は平成8年～30年の23か年の平均値。

②種子：野菜研究所は福地ホワイト（13～14g）。藤崎町は福地ホワイト（13～15g）。

七戸町は白玉王（9～11g）。田子町は白玉王（10～12g）。

③葉数：野菜研究所は抽出葉数。藤崎町、七戸町、田子町は生葉数。

(2) 今後の農作業の留意点

ア 今後の見通し

向こう1か月の天候の見通し(5月9日気象庁発表)では、気温は平年並か高く、降水量・日照時間はほぼ平年並の予報であることから、今後の生育もやや早まると見込まれる。

イ 病害虫の適期防除

(ア) 春腐病は、降雨や濃霧が続くと急増するので、天気予報で3～4日曇雨天が続くと予想される場合には、降雨前の予防散布を徹底する。また、腐敗が進行している株は伝染源となるので見つけ次第抜き取る。

(イ) さび病が発生しているほ場では、効果持続期間が長い薬剤を散布して、病勢の進展を抑える。

(ウ) 葉枯病、黄斑病、白斑葉枯病、ネギコガなどは、ほ場を見回り、早期発見・早期防除を徹底する。

ウ とうの摘み取り

抽だいが始まったら、随時とうを摘み取り、球の肥大を促す。とうの摘み取りは、珠芽が葉鞘から完全に抜け出してから行う。

2 ながいも

(1) 今後の農作業の留意点

ア 普通栽培の植付適期は5月中旬～6月上旬なので、計画的に植え付ける。

ただし、切いもの場合は、地温が低いと種いもの腐敗を招きやすいため、地温15℃以上を確保できる5月下旬～6月上旬に植え付ける。

イ 覆土は、植付け後速やかに6cm程度の厚さで行う。2～3週間後に、さらに6cm程度培土し、植付けの深さは12cm程度とする。

ウ 頂芽付小型1年子の早植栽培(4月下旬～5月上旬植付け)の基肥は、萌芽期(萌芽が50%の頃)に、窒素成分で10a当たり6～10kg施用する。

3 春夏にんじん

(1) 生育状況

- ア 生育は、地上部、地下部ともに平年を上回っており、順調である。
イ 病虫害の発生はみられない。

表－5 春夏にんじんの生育状況（5月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 長 (cm)	根 径 (mm)	根 重 (g)	備 考
六 戸 町 (下吉田)	本年 (平年比)	3/ 5 12日早	21.0 (110%)	5.8 (122%)	15.3 (112%)	11.1 (131%)	5.2 (156%)	透明ポリ トンネル
	平年	3/17	19.1	4.8	13.7	8.5	3.3	
	前年	3/16	27.3	5.3	12.4	10.1	3.4	

注) ①平年：平成21年～30年の10か年の平均値。

②品種：彩誉7

(2) 今後の農作業の留意点

ア 間引き

トンネル栽培では本葉5～6枚時まで、べたがけ栽培では本葉3～4枚時までに1本立てとする。なお、次のような株は間引きする。

- ① 葉色が濃すぎるもの ② 葉が粗剛で刻みの大きいもの
③ 葉数が多すぎるもの ④ 生育が極端に良すぎるもの、または悪いもの
⑤ 病虫害の被害があるもの

イ 温度管理

(ア) トンネル栽培では、高温障害を防ぐために温度管理を徹底する。

- ① 4葉期まで：30℃以下 ② 5葉期～：25℃以下
③ 5月下旬：順化（裭、裾は開けたまま）
④ 6月上旬：除覆（平均気温15℃以上）

(イ) ベたがけ栽培では、本葉5～6枚時を目安に除覆する。ただし、この時期に低温が予想される場合は、本葉7枚頃まで除覆せず保温に努める。

ウ 追 肥

(ア) トンネル栽培では、本葉5～6枚時に、窒素、加里とも成分で10a当たり3kg程度の追肥を行う。

(イ) ベたがけ栽培では、本葉3～4枚時に、窒素、加里とも成分で10a当たり3kg程度を追肥し、本葉5～6枚時にも同様に行う。

4 春だいこん

(1) 生育状況

- ア 生育は、葉長が平年を下回っているものの、葉数、根重ともに平年を上回っており、おおむね順調である。
- イ 病害虫の発生はみられない。

表－6 春だいこんの生育状況（5月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 重 (g)	備 考
おいらせ町 (内山平)	本年	3/18	34.1	22.9	251	透明ポリマルチ＋ 透明ポリトンネル
	(平比)	2日早	(91%)	(109%)	(110%)	
	平年	3/20	37.4	20.9	229	
	前年	3/21	35.0	19.5	158	

注) ①平年：平成21年～30年の10か年の平均値。
②品種：春の星

(2) 今後の農作業の留意点

ア 収穫

根部の肥大状況を確認しながら適期に収穫する。

イ 病害虫防除

例年、キスジノミハムシの発生が見られるほ場では、トンネル除去後、早めに防除する。

5 ばれいしょ

(1) 生育状況

植付期は平年より1日早く、萌芽期は平年より1日遅かった。生育は、草丈が平年を下回っているが、茎数は平年並となっており、おおむね順調である。

表－7 ばれいしょの生育状況（5月10日現在）

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	草 丈 (cm)	茎 数 (本)
三 沢 市 (庭 構)	本年	4/ 6	5/ 5	10.2	2.5
	(平比)	1日早	1日遅	(79%)	(104%)
	平年	4/ 7	5/ 4	12.9	2.4
	前年	3/30	5/ 1	13.5	2.4

注) ①平年：平成19年、平成21年～24年、平成26～30年の10か年の平均値。
②萌芽期の平年：平成21年～24年、平成26～30年の9か年の平均値。
③品種：メークイン

(2) 今後の農作業の留意点

ア 培土と追肥

1回目の中耕・培土は、草丈10cm頃を目安に行う。2回目は、着蕾期（40～50%の株が蕾を着ける時期）に窒素成分で10a当たり4～5kgを追肥してから行う。

イ 病害虫防除

6月中旬以降になると病害虫が発生しやすくなるので、早期発見・早期防除に努める。

なお、疫病の防除は予防散布を徹底するとともに、同一薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤をローテーション散布する。

6 メロン

(1) 生育状況等

トンネル栽培（4月下旬～5月上旬定植）では、定植作業は例年より5日程度早く始まっており、定植後の活着も良好で、生育は順調である。

(2) 今後の農作業の留意点

ア 温度管理

トンネル内の温度は15～30℃を目標に換気し、雌花の確保と生育促進に努める。

イ かん水

乾燥による生育抑制が懸念されるほ場では、かん水に努める。

ウ 整枝・着果

(ア) 子づる2本仕立てとし、うねと直角方向に誘引する。着果節位は子づるの10～15節とし、子づる1本当たり3～4果連続で着果させる。子づるは22～25節前後で摘心する。

(イ) 孫づる(わき芽)は、着果節位までは早めに全てを除去し、着果節位の孫づるは、開花期前後に1～2葉残して摘心する。着果節位より上の孫づるは、順調な生育状態では全て除去するが、草勢が弱い場合は1葉を残して摘心する。つる先の2～3本は、生育調節のために残しておく。

エ 交配

着果節の開花7日前までにミツバチの巣箱を畑に設置し、蜂の訪花活動を促す。

蜂の動きが活発でないときは人工交配を行う。人工交配は、雄花の花粉を直接または筆で雌花の柱頭に軽く付ける。また、天候不順の場合はホルモン処理を併用する。

オ 摘果

果実が鶏卵大（着果後7～10日）の頃に、形状の良いものを子づる1本当たり2果残す。

◎メロンやいちごなどの園芸作物で、花粉交配用ミツバチが確保できない場合には、各地域県民局地域農林水産部まで御相談ください。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！
ほ場の準備に当たっては、土壌診断に基づいた土づくりに努めましょう。

◎農薬の使用に当たって、
農薬は適正に使用しましょう。
農薬の飛散を防止しましょう。
農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てないようにしましょう。
クロルピクリン剤など土壌くん蒸剤を使用する際は、必ずポリエチレンフィルム等(厚さ0.03mm以上または難透過性の資材)で被覆してください。
農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認してください。
市販されている除草剤には、農作物等の栽培管理に使用できない「非農耕地専用除草剤」があるので御注意ください。
農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)
農薬登録情報提供システム
【詳細検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)
【作物名検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp101.jsp>)

◎春の農作業安全運動を展開中です(4月1日～5月31日)
例年、4～5月は、農作業事故が多くなる時期となっています。
体調やまわりの状況を確認し、安全な農作業に努めましょう。
1 慣れた作業でも油断せず、注意して行いましょう。
2 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。
3 自分を過信しすぎず、無理のない作業を行いましょう。
4 一人での作業は避け、やむを得ず一人で作業を行う場合は、家族に作業場所を伝え、携帯電話を持ちましょう。
5 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼びかけましょう。

◎～農業保険(農業共済及び収入保険)への加入について～
自分にあったセーフティネットに加入し、農業経営に万全の備えを！
1 農業共済
「農業共済」は、自然災害等により農作物・家畜・園芸施設に損害が生じた場合に補償される制度です。
2 農業経営収入保険
令和元年から始まった「農業経営収入保険」は、自然災害に加え、農産物の価格低下などにより販売収入が減少した場合に補償される制度です。加入には、青色申告の実績が条件となっています。
※ 詳しくは、お近くの農業共済組合にお問い合わせください。

連絡先	農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線	5076
直通	017-734-9485
